beauty salon ema

佐伯　美沙希

SAEKI　MISAKI

1995年　三条市出身
2021年　beauty salon emaをオープン

市内田中に、肌質改善のフェイシャルエステサロン「beauty salon ema（ビューティーサロンエマ）」を始めてもうすぐ丸3年という佐伯美沙希さん。三条市出身で小さい頃は保育士になるのが夢だったそう。美容も好きで、高校生の頃から友達にメイクをしたり髪を編んであげたり、人をきれいにして喜んでもらうことも好きだったと振り返る。

美容師を目指していた双子の姉の付き添いで、美容専門学校のオープンキャンパスを訪れたことがきっかけとなり、美沙希さんは美容の世界へ進むことを決めた。専門学校では、着付けやメイク、ヘアアレンジ、ネイル、エステ等々、さまざまな美容の知識や技術を総合的に学んだ。

じつは、美沙希さんには日光アレルギーやアトピー性皮膚炎もあり、肌が弱いことが悩みだった。皮膚科で処方された薬を使っていたが良くなったり悪くなったりの繰り返し。市販の化粧水が使えない状態を心配して、母がデパートの化粧品売り場に誘ってくれた。そこで出合った化粧品とスタッフのアドバイスのおかげで肌が良くなっていった。何よりもうれしかったのは、スタッフの人たちが親身に寄り添って対応してくれたことだった。美沙希さんは専門学校を卒業後、その化粧品会社に就職。全国の百貨店などをまわる美容部員として多くの経験を積んだ。

独立を考え始めたのは上越市へ転勤した頃、メーカーでの仕事に限界を感じ始めたからだという。顧客一人への対面時間はおよそ20～30分、「一人一人に寄り添い、もっと踏み込んだところまで肌のケアをしてあげたい」という気持ちが高まった。退職後、1年間はエステサロンオープンのための準備に費やし、店舗の内装にもこだわった。

明るくやわらかな光が差し込むサロン内はカウンターもあり、カフェやネイルサロンを思わせる居心地の良い空間。カウンターで顧客の横に座りカジュアルな雰囲気で肌の悩みに耳を傾ける。メニューには、毛穴やニキビ、美白・シミ対策、しわ、たるみ等に対応したトリートメントや小顔矯正マッサージなどのコースが並ぶ。使用する商材は全て自分の肌で3カ月間試し、使用感や効果を確認して仕入れたものばかり。希望があれば販売も可能だという。前もってコースを予約して訪れる方もいるが、「一人一人の肌の悩みや当日の肌の状態を見極めて、その人に今一番必要なメニューをおすすめしています」という。

常に新しい知識を取り入れ、成分や効果などをメーカーにも確認するという美沙希さん。「6月には韓国のクリニックで扱っているピーリングのメニューを新しく持ってきます」と明るい笑顔を向けた。

ホームページ

LINE

お問い合わせ

beauty salon ema
柏崎市田中10-31
アミュレット田中ビル103
070-8595-2216 ＊完全予約制 不定休